佐々木能理男（ささき のりお）評論家、独逸語家。明治三十五年十月二十八日宮城縣生れ、昭和四十七年一月四日歿（一九〇二―七二）。大正十四年東京帝國大學法學部卒。映畫雜誌の編輯等を經て、後年は著作權問題の調査研究に從事。

譯書、ルートヴィヒ・レン作『戰爭』（昭和五年十一月十八日世界社）、エイゼンシュテイン著『映畫の辯證法』（昭和七年一月十七日往來社）、ベエロ・ボラージュ（ボラタジュ）著『映畫美學と映畫社會學』（昭和七年五月十八日往來社「映畫科學研究叢書」）、ナイリップ・ミラー著『映畫文化の精神（空想製造機）』（昭和八年九月十七日往來社「映畫科學研究叢書」）、ナイヨドル・スチエパン著『純粹藝術としての映畫』（昭和十年七月十六日藝術社）、フランセス・マリオン著『シナリオ講話』（昭和十二年四月八日藝術社）、ゲッペルス著『勝利の日記』（昭和十八年十月五日第一書房「戰時體制版」）、ハウスホーファー著『日本』（昭和十八年二月二十日第一書房）、ヴァルター・シュルツエ＝ゼルデ著『世界觀と政治』（昭和十八年十月十五日日月書院）等。

著書『帝國映畫藝術論』（飯島正共著、昭和五年七月十二日天人社「新藝術論システム」）、『ナチスの文化體制』（昭和十六年四月十五日天貫書店）、『意志の勝利』（笠見恒夫共著、昭和十七年三月十日青山書院）、『映畫の話』（昭和二十四年五月二十日成城國文學會「文藝讀本」）等。